

夏休み・親子防災体験教室に11組

# 夏休みの1日を親子で満喫

佐賀県建設業協会など主催



一般社団法人佐賀県建設業協会（岸本剛会長）と㈱エフエム佐賀が主催する「夏休み・親子防災体験教室」が6日、佐賀市のアバンセで開催され、県内の親子11組、29人が参加

した。最寄りの小学校まで歩きながら危険箇所をチェック。包装食袋を使った米の炊き出しや防災マップ作りなどを体験した。午後には県庁の防災センターや嘉瀬川ダムを見学し、夏休みの1日を親子で満喫した。

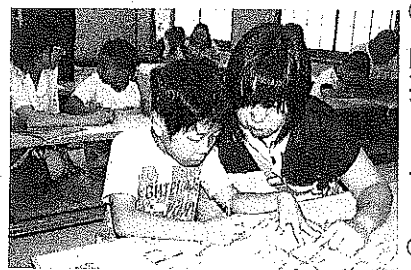
主催者あいさつで岸本会長が「土砂崩れなどの災害が起きるのを防ぐのも、道路を復旧するのも建設業の大切な仕事です」と建設業を説明。「一

番怖いのは命を失うこと。地震や大雨などの天災は防げないので、家族で自分の命を守る作戦を立てておきましょう。きょうは一日楽しく過ごしてください」と優しく子どもたちに語りかけた。

危険箇所チェックから帰った小城市立牛津



防災食調理体験⑤と防災マップづくり⑥



小学校2年生の宮崎純司くんは「フェンスやガードレールがない場所があり、水があふれた時に道路と川との境目が分からなくなるから危ない」と報告。一日を終了した参加者から「日頃から避難の仕方を話し合っておくことが大事だと思った」などの感想が寄せられた。

岸本会長は「県内ではゲリラ豪雨や竜巻などが心配。この教室をきっかけに身近な危険を親子で考え、避難場所なども論議していただきたい」と話した。